

あ い さ つ

東山梨教育協議会会長 雨宮政文

東山梨教育協議会を構成する校長会・教頭会・教育連合会の教育三者が、この1年、共に取り組み深めてきた様々な研究を集録した「東山梨教育研究」が、52号の発刊となりました。半世紀を超える歴史を積み重ね、今なお発足当初のまま、「平和を守り真実を貫く民主教育の確立」「国民の教育権の確立」を根幹に、「人間性豊かな子どもの育成とその学習を保障する教育活動の探求」を枝葉として進められている「東山教育」は、今年度も充実した足跡を残してきました。今号においても、目の前の子どもたちの明るい未来のために、今できることを全力で取り組んでいこうとする会員一人ひとりの熱い教育活動が、生き生きと表現され、深々とした重みと価値を感じます。

さて、現在の教育現場は、かつて無いほどの激しい変化の中に置かれています。少子化の傾向が進み、本来家庭や地域社会の中で育まれるはずの基本的な生活習慣、社会的規範意識や人間関係形成力など、育ちきれない子供たちの課題はますます深刻になっています。

そのような中、今年度は教育関係でいくつもの話題がメディアを賑わしました。文科省は、グローバル人材の育成のため、2020年度全面実施を目指し、学習指導要領の全面改定を今年中に中央教育審議会に諮問する方針であることを示しています。昨年来「道徳の教科化」「教科書検定基準の見直し」「土曜授業実施」「教育委員会改革」等、次々に新たな課題が投げかけられています。また、学力・いじめ・不登校・体罰等、今すぐ取り組まなければならない現在の課題もたくさんあります。

私たちは、このように山積する教育課題の中で、何をしなければならないのでしょうか。もちろん一つひとつが重要で現代的な課題であり、全力で取り組んでいかなければなりません。流行に流され課題主義に陥らないよう、常に原点に立ち返って不易の部分を大切にしていかなければならないとも思っています。

今年の3月で、ピキ二環礁で第五福竜丸が被爆して60年になります。未だ当地では再定住に至っていないようですが、現代日本においても福島第一原発事故に係る再定住はいつになるのでしょうか。平和とは何か、真実とは何か、何を以て「平和を守り真実を貫く民主教育」と言うのか。今、私たちはしっかりとそのことを踏まえ、厳しい状況にある目の前の教育活動を進めていかなければならないと思います。

このような中で、私たち教師が果たす役割はますます重要で難しいものになってきています。与えられたことをそのまま受け入れるのではなく、自己研鑽を重ね、しっかりとした教師力を付けていくことなしには、課題の解決はあり得ないのだと考えています。

幸いなことに、東山梨には、多くの先輩方が長期にわたって培ってきた盤石の実践があります。教育三者が一体となり、保護者・地域・行政・関係機関との連携を深め、研究を継続させていくことにより、困難な教育課題を解決し、輝かしい子供たちの未来を保障していけると確信しています。本誌がその一助となり、更に研究が継続・発展していくことを願ってやみません。

結びに、私たちの研究活動を物心両面にわたりご指導・ご支援いただきました大変多くの皆様に衷心より御礼申し上げます、あいさつとさせていただきます。